【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	6 事		事業			社会資本整備総合 交付金 (港湾事業)			路線又は箇所名等			千葉港千葉中央地区			
事:	業	所	管	課		港滘	韘		事	業	主	体		千葉県	Į
事業化年	F度	平	成17年	度	用地着·	手年度		_	•	着手年度了(認可)年度	` ···	19年度 132年度	再評価の	の理由	再評価
費用便			6. 0 2. 7)	総	費用	55 億 (16 億	円円	総便益		330 億円 198 億円)	基	準年	平成27年度	供用開始 年度	平成33年度

※上段:全体事業 下段():残事業

【事業概要】

(目的)

千葉港の玄関口にふさわしい賑わいのある親水空間を創出するため、千葉みなと駅前から 千葉ポートタワーに至る緑地プロムナードと、港内遊覧船等が係留できる小型桟橋の整備を 行う。

(規模)

- 港湾緑地 A=1.5ha
- ふ頭用地 A=0.1ha
- · 小型桟橋 (L=50m) 2基
- 防波堤 (L=80m) 1 基

【事業の進捗状況】(平成27年度末見込み)

	全体計画	投資事業費	残事業費	進捗率
事業費(億円)	47. 3	34. 0	13. 3	71. 9%

【社会経済情勢等】

- ・市民の価値観が物質的な豊かさのみならず、精神的な豊かさも重視する方向へ変化していることに伴い、ウォーターフロントでの余暇活動、海洋性レジャー、景観・環境保全等への関心の高まりに対応し、海の自然や港の魅力に触れ合える場の提供が求められている。
- ・千葉みなと駅前では、UR都市再生機構が平成5年度から平成23年度にかけて土地区画整理事業によるまちづくりを行っており、海辺空間と親水性を活かしつつ、賑わいと回遊性のある都市空間を形成するため、ウォーターフロント空間の創出が求められた。

【対応方針(案)】

- ・本事業は、全体事業の費用便益比 (B/C) が 6.0 (残事業 12.7) であり、事業の投資効果が 見込まれる。
- ・本事業は、みなとを活かしたまちづくりの一翼を担うものであり、地域の活性化にも寄与するものであることから、今後ともコスト縮減と効率化に努めながら、早期完成に向けて事業を継続したい。

【別紙様式4】

事業概要図

番号

6

事業名

社会資本整備総合 交付金(港湾事業)

路線又は箇所名等

千葉港千葉中央地区







